

シーズ分野;基礎医学 病理学

研究シーズ;パラミクソウイルスの免疫回避機構の研究

— 宿主インターフェロンシステムに対する対抗能の進化 —



滋賀医科大学 病理学講座 微生物感染症学部門

教授 後藤 敏

「ウイルスの多彩な免疫回避機構の研究」

■ 関連文献・特許

- FEBS Letters 588(1): 28-34, 2014
- J Virology 87(4): 1974-1984, 2013
- J Virology 82(20): 10102-10110, 2008

■ 研究概要

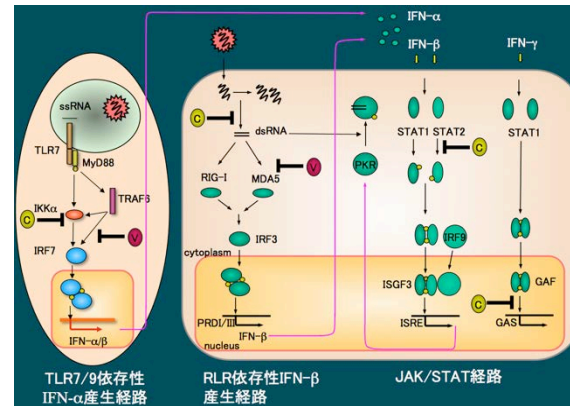
パラミクソウイルス科には麻疹ウイルス、おたふく風邪ウイルスの他、呼吸器ウイルス(パラインフルエンザウイルス、RSウイルス、メタニューモウイルス)、致死性脳炎ウイルス(ニパウイルス、ヘンドラウイルス)が含まれる。これらのウイルスは、宿主免疫から逃れるため様々な回避機構を進化させてきた。特に、初期の宿主免疫応答で重要な役割を果たすインターフェロン(IFN)システムに対しては、ウイルスのアクセサリータンパク質(C、V、M2-2等)が細胞内シグナル伝達を様々なステップでブロックしている。

■ 応用展開・共同研究テーマ例

- ・新興感染症(ニパウイルス・ヘンドラウイルス)を対象とした研究
- ・メタニューモウイルスの増殖評価法の提供

■ 研究者からのお願い(ニーズ)

- ・ウイルス自然免疫回避機構(特に新興ウイルス)の分子レベルでの解明(基礎研究レベル)から、臨床応用に向けた共同研究



パラインフルエンザ1型ウイルスは、少なくとも6箇所では、IFN産生経路(2箇所)を、また、C蛋白質はIFN産生経路(2箇所)の他、JAK/STAT経路(2箇所)をブロックする。

宿主IFNシステムとパラインフルエンザ1型ウイルスのシグナル伝達阻害

お問い合わせ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携担当

077-548-2847 E-mail;hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp